多拠点・リモートワークの通信をCASBで可視化
未経験でも実現できた脱VPNとゼロトラストシフト

導入事例

「労働力不足を解決し 人と企業を豊かに」を掲げ、CGS（Crowd Generated Service）※・BPOを中心に事業展開する株式会社うるる。子会社を含め全国に8拠点を展開し、ハイブリッド型の働き方を推進する同社では、SaaSの部門別導入が進む一方、通信状況をリアルタイムで可視化できず、VPN機器の脆弱性リスクを抱えていました。

そこでゼロトラストシフトに向けたグランドデザインを2021年に策定。その最終段階のひとつであるCASB（Cloud Access Security Broker）の導入で同社が選んだのが、Netskopeでした。決め手は、SaaSの可視化力、固定IPサービス、Netskope Private Access（以下、NPA）による脱VPNまでの総合力。ネットワーク未経験からこの取り組みを担った担当者が、周囲のサポートを得ながら全従業員の通信可視化と脱VPNを達成するまでの裏側をご紹介します。

※Crowd Generated Service (CGS) とは、クラウドワーカーを活用したうるる独自のビジネスモデル



ハイブリッド型の働き方で高まる、通信の可視化ニーズ
ゼロトラスト施策の最終段階に残ったCASBとVPNリスク

東証グロース市場に上場する株式会社うるるは、入札情報速報サービス「NJSS」や電話代行サービス「fondesk」、BPO事業などを展開。正社員数は304名（子会社含む、2026年3月末時点）で、リモートワークとオフィス出社の組み合わせたハイブリッド型の働き方が定着しています。東京本社のほかに子会社が展開する徳島・大分等のBPOセンターなどを合わせ、グループ全体で計8拠点を展開しています。

全社共通で導入されているITツールは少なく、部門ごとにSaaSの個別導入が進んでいました。プロキシによる制御はなく、ほぼ全員がリモートワークを実施できる状態を維持するため、専用機器のIP VPNのログでは各PC端末のアクセス先を検知できない状態だったそうです。そう話すのは、株式会社うるるの情報システム本部 情報システム部 情報システム課 DXセキュリティチームに所属する野田 真希 氏です。2024年7月に入社してすぐに任されたミッションのひとつが、Netskopeの導入でした。

「もう1つの課題がVPNでした。業務上、より高いセキュリティ基準への対応が求められており、VPNへの依存からの脱却は最優先課題のひとつでした。その他にも、ネットワークの速度や毎回の切り替え操作といった利便性面の負担も課題として挙げられていました」（野田氏）

同社は2021年頃にゼロトラスト施策のグランドデザインを策定し、IDaaS・MDM・EDRを段階的に導入済み。残る最終段階が、CASBとSIEM（Security Information and Event Management）の構築でした。

ULURU

組織概要

業界	地域	設立	従業員数
情報・通信業	日本	2001年	304名（子会社含む、2026年3月末時点）

株式会社うるる
https://uluru.biz/



株式会社うるる
情報システム本部 情報システム部
情報システム課
DXセキュリティチーム
野田 真希 氏

SaaS可視化・固定IP・脱VPNの総合力でNetskopeを採用
初期導入は「全PC端末への配布」をゴールに設定

2023年11～12月、同社はディストリビューター経由で、Netskope販売パートナーであるネクストモード株式会社の紹介を受けます。複数回の打ち合わせとセミナー参加を経て、PoC（概念実証）の実施を決定しました。製品選定では、他社製品とNetskopeの相見積もりと機能面の比較検討が実施されたと、野田氏は話します。

「SaaSの利用状況を可視化できること、送信元IPのアドレス固定化機能があったことからNetskopeが候補に挙がったと聞いています。さらにNetskope Private Accessがあり、レガシーVPNを廃止できることもポイントでした。そして、私の入社以前に策定されたグランドデザインで、CASBの導入がマイルストーンとして設定されていたことが、Netskope導入の決め手です」（野田氏）

Netskopeは8万5,000以上のクラウドアプリ（1,800以上のGenAIツールを含む）を評価するデータベースと、固定IPサービス（Dedicated Egress）を備えています。今回、Netskopeの導入を担った野田氏の前職はWebアプリケーション開発エンジニアで、ネットワークの運用・保守は未経験でした。入社後にNetskopeのPoCを任されたものの、基本的な製品知識の習得に時間はかからなかったと当時を振り返ります。

「他社のネットワークサービスでは、コンフィグファイルの作成や、権限やポートなどの細かい設定が必要なことが多いと聞いています。しかしNetskopeの場合、画面上の操作だけで完結できるため、設定の手順が理解しやすかったことが印象的ですね」（野田氏）

2024年8月に開始したPoCでは、機能を一つずつ網羅的に検証。契約後の初期導入では「100%を目指さない」方針を採り、まず全PC端末へNetskope Clientを配布することを初期ゴールに置きました。Netskopeは機器や物理層の設定を積み上げるインフラ型の製品ではなく、アプリケーションに制御ルールを適用していくアプローチの製品です。ネットワーク構築より、むしろアプリケーション開発にも通じる設計が、野田氏の経歴とも噛み合いました。

SSL復号を絞る、段階的マイルストーンと対話で全社に浸透
ユーザー単位の柔軟な制御で自由な文化と統制を両立

全社展開で壁となったのが、一部の開発ツールの通信に影響するSSL復号の扱いです。最も影響を受けるのは開発部門のエンジニアであり、上場企業ながらも自由な社風の同社では、丁寧な合意形成が欠かせませんでした。

そこで野田氏は、段階的なマイルストーンをおいてエンジニアからの理解を得ながら慎重に推し進める方針を採用しました。SSL復号をせずに全PC端末へのNetskope Clientの配布を先行させ、復号の対象を徐々に拡大。統制は後から強めることで現在進行している業務を止めずに展開しながらも、現場のエンジニアとは1～2時間に及ぶ対話も重ねたといいます。また、ユーザー単位で制御を変えられるNetskopeの柔軟さも、段階的な全社展開を後押ししました。

現在は手順書を整備し、必要に応じて他のメンバーとも連携しながら運用しています。2025年7月には、従来VPNを利用していた従業員全員がNPA接続へ移行し、無事に脱VPNが完了しました。

全従業員の通信を可視化し、脱VPNで業務効率も向上
仕組み化した運用で、次はAI時代のガードレールへ

運用開始から約1年、不透明だった通信状況が可視化されました。シャドーITを検知し、本人に確認し、対策を講じるというループが回る状態を実現しています。

Netskopeの導入効果は統制面だけではありません。IP制限のあるSaaSのために毎回実行していたVPNの操作も不要になりました。野田氏は社内からの評価として、「Netskopeを入れたことで毎回のVPNの操作が不要になり、日々の業務が楽になったと、リモートワークをしている社員からよく聞きます。社内アンケートでも『VPNからNPAに変えてよかった』と好意的な声が届いています」と話します。

また、野田氏はこう続けます。「ネットワークを意識することなく業務を開始でき、通信速度も速い。セキュリティを厳しくしたら大体の業務は効率が悪くなってしまうイメージが先行しますが、業務効率が良くなるケースもあるのです」（野田氏）

アラートの検知から対応、報告までを担うこの運用体制は、手順書の整備によって効率化が図られています。ゼロトラスト施策も着実に前進しており、今後もログ管理・分析基盤のさらなる強化を進めていく予定です。

さらに野田氏が今後1～2年の課題と位置づけるのが、AI時代の統制です。「AIでどういうデータが作られているのか、どういう情報がLLMに送られているのか、今の状況では把握しきれません」と野田氏。目指すのは、禁止一辺倒ではない統制の形です。

「うるるの強みは、やはりベンチャー気質です。現在全社的に推進しているAIの活用は自由に任せつつ、危ないところはちゃんと守ってあげられる。それが自然にできているガードレールをしっかり作っていきたいですね」（野田氏）

取材の最後に、同社に入社したばかりの頃と同じ不安を抱える担当者へ、野田氏は語りかけます。

「特にセキュリティ領域のソリューションの導入は、予算も規模感も影響度も大きくなりがちです。その大きさを前に尻込みしてしまうかもしれませんが、アプリケーション開発にも通じる設計のNetskopeは、導入のハードルは比較的低い製品になっているかなと思います。怖がらずに、まずは小さな目標から着手していく方法がおすすめです」（野田氏）

同社が掲げる「労働力不足を解決し 人と企業を豊かに」というビジョンのもと、BPO事業のAI付加価値型への転換など、AIと人のチカラをかけ合わせた事業の進化・創出に挑み続けています。その挑戦の土台となるセキュリティ基盤を、Netskopeはこれからも支えていきます。

netskope

Netskopeは、クラウドおよびAI時代の最新のセキュリティとネットワーク技術で業界をリードしています。Netskope Oneプラットフォームを基盤とするNetskopeは、セキュアなアクセス、データセキュリティ、AIセキュリティを統合。クラウド、AI、SaaS、Web、プライベートアプリケーションまで、組織全体にわたるリアルタイムの可視化と制御を実現します。NewEdgeの技術を搭載したNetskopeは、リスク軽減とインフラの簡素化を支援。セキュリティとパフォーマンスの妥協を不要にします。詳細は netskope.com/jp をご覧ください。

©2026 Netskope, Inc. All rights reserved. Netskope, NewEdge, SkopeAI, and the stylized "N" logo are registered trademarks of Netskope, Inc. Netskope Active, Netskope Cloud XD, Netskope Discovery, Cloud Confidence Index, and SkopeSights are trademarks of Netskope, Inc. All other trademarks included are trademarks of their respective owners. 11/26 CS-1034-1